

## 執筆者紹介

(執筆順、\*印は編者)

**いしはし としろう**  
石橋 敏郎 熊本県立大学総合管理学部教授 第1・7・11章

### 〈読者へのメッセージ〉

少子高齢社会を迎えて、社会保障は見直しと再構築の時代に入ってきました。何をどのように見直したらいいのか、将来に向かって安定した、信頼のできる制度にするためにはどうしたらいいのか、この本を参考にして考えてみてください。

**いし もり ひさひろ**  
石森 久広 西南学院大学法学部・法科大学院教授 第2章

### 〈読者へのメッセージ〉

法律は、所与のものではなく、固定的なものでもありません。みんなで作り、みんなで解釈していくものです。どう作りどう読めば憲法の価値を実現できるか、ひいては人が人として幸せになれるか、みんなで知恵を出し合っていきましょう。

**きむら しげ き**  
木村 茂喜 西南学院大学保健福祉学部准教授 第3章

### 〈読者へのメッセージ〉

社会保障について学ぶということは、社会全体についても学ぶということにもつながります。単に「試験のため」「単位のため」に学ぶのではなく、社会保障についての学びを通して、よりよい社会を築き上げるためにはどうしたらよいか、考えていきましょう。

**い を がわりの かず**  
伊奈川秀和 厚生労働省参事官（社会保障担当） 第4章

### 〈読者へのメッセージ〉

わが国は、世界でも最も長い健康寿命を享受していますが、それを支えるのが医療保険を中心とした医療保障制度です。社会保険である医療保険には、独自の理論と体系があり、本書を通じて読者の理解が深まることを期待しています。

**たなか しゅういちろう**  
田中 秀一郎 岩手県立大学社会福祉学部講師 第5章

### 〈読者へのメッセージ〉

日本の年金保険制度は、すべての人々が、世代と世代との間で、あるいは同じ世代内で助け合うことを基本としています。では、どのような制度設計にすれば、人々（皆さん）が納得できる制度になるか一緒に考えてみましょう。

ちょう ち はる  
長 千春 西九州大学健康福祉学部助教

第6章

〈読者へのメッセージ〉

高齢者の介護は、誰もが高い確率で遭遇する身近な問題であり、社会的にも大きな課題となっています。介護保険制度を学び、介護を社会的に支える仕組みについて考えてみましょう。

うえはら きみこ  
上原紀美子 久留米大学文学部准教授

第8章

〈読者へのメッセージ〉

勉学においては決して人と比べることなく、たとえ思い通りに勉学の成果が出ない時があったとしても、決して焦ることなく、あくまでも「昨日の自分より今日の自分、今日の自分より明日の自分」と心に決め、粘り強く着実に前進していきましょう。

かいたう きぬよ  
相 藤 絹代 熊本学園大学社会福祉学部准教授

第9章

〈読者へのメッセージ〉

社会保障費に占める、高齢者・障害をもつ人の関係給付費は年々増加傾向にあります。高齢化の進行や社会の変化、経済状況、政策変更などにアンテナを高くして、常に問題意識を持って日々の学習に望んでください。

ひらべ かつこ  
平 部 康子 福岡県立大学人間社会学部准教授

第10章

〈読者へのメッセージ〉

児童が安心して成長できる条件・基盤があるのかという問題に答えるためには、児童福祉・社会手当という個別制度を学ぶだけでなく、社会保障制度全体を横断的に検討することも必要です。